

いちだい地域共創プロジェクト



いちだい地域共創プロジェクトは、2022年度から始まった事業です。地域の課題解決に取り組んでいる広島広域都市圏及びその周辺地域の地域団体から提案を受けて、本学の教職員や学生が、応募団体と協働して、課題解決に向けた取組を実践するものです。実施に必要な活動経費を大学が負担します。



▶2022年度採択事業一覧

01 広島・横川発！アンジュヴィオレ広島と国連ユニタール協会による「開発と平和のためのスポーツ（Sport for Development and Peace）」としての社会貢献

代表者：国際学部 講師 山平 芳美

連携先：特定非営利活動法人広島横川スポーツ・カルチャークラブ



【地域課題・実施内容】

広島・横川の地域住民が運営する女子サッカーチーム「アンジュヴィオレ広島」と一般社団法人国連ユニタール協会と本学が共同して、一見スポーツとは関係ないと思われる、紛争・貧困・ジェンダーといった社会問題に、スポーツの力を動員する「開発と平和のためのスポーツ（Sport for Development and Peace）」の活動に取り組み、広島広域都市圏及びその周辺地域の持続的発展や広島だからこそ取り組むことができるグローバルイシュー（Global Issue）の解決に向けて貢献することを目指しました。

02 SNS情報を活用した観光地魅力可視化プロジェクト

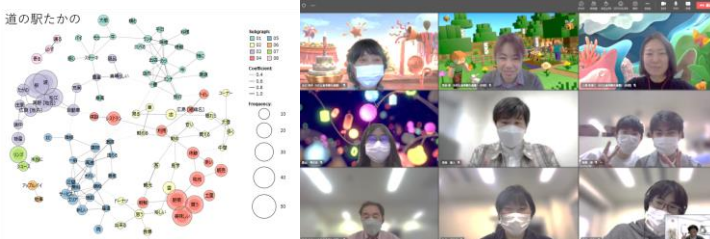
代表者：情報科学研究科 講師 目良 和也

連携先：一般社団法人広島県観光連盟（HIT）

【地域課題・実施内容】

広島県観光連盟では、広島がリピータブルな観光地となることを目指して、各種データを分析・発信していますが、これまでの観光データの取得はアンケート調査など過去のデータ分析がメインとなっており、リアルタイムでの情報取得が困難でした。

そこで、本プロジェクトでは、広島観光客がSNSへ投稿するコメントをデータマイニングし、観光客が現在感じている広島の魅力や受入環境等の不満を可視化することを目指しました。



03 アーティストのために整備した「AIR Hiroshima Studio」と「AIR Hiroshima Gallery」の活用による地域の文化・芸術の振興への寄与

代表者：国際学部 准教授 石谷 治寛

連携先：横川エリアマネジメント連絡協議会



【地域課題・実施内容】

横川で整備したAIR Hiroshima Studio」と「AIR Hiroshima Gallery」の2つの空間の運営規約の策定、ロゴデザインの作成、利用システムの構築、効果的な広報活動などを行うことをとおして、地域の文化・芸術の振興を目指しました。

04 渡日生のための宿題お助けプロジェクトと 渡日生支援者向け日本語教育セミナーの開催

代表者：国際学部 准教授 重田 美咲
連携先：NPO法人安芸高田市国際交流協会



【地域課題・実施内容】

外国にルーツのある子どもたちにとって、日本の夏休みの宿題は大変です。そこで、本学の学生が夏休みの宿題支援を行うことにより、子どもたちに宿題に取り組む意欲を高めてもらい、自信をもって笑顔で2学期を迎えてもらうことを目指しました。加えて、渡日生支援を行う地域団体に対して「日本語教育セミナー」を行うことで、渡日生支援者のより一層のスキルアップを目指しました。

05 似島の歴史ガイドボランティア活動に資する 教材制作

代表者：社会連携センター 特任教授 國本 善平
連携先：似島歴史ボランティアガイドの会

【地域課題・実施内容】

似島は、かつて陸軍検疫所などが設けられ、被爆後に多くの被害者が搬送されました。現在も旧陸軍検疫所の一部、陸軍埠頭等が残っています。2021年4月にできた「似島平和資料館」を拠点に、地元の野の島歴史ボランティアガイドの会が歴史遺構のガイドを行っています。しかし、案内のための説明資料が不足しているため、本学の学生が現地で遺構やボランティア活動に触れ、資料を調査・学習し、案内用の紙芝居を制作しました。



06 せんだまちアートプロジェクト

代表者：芸術学部 講師 今野 健太
連携先：にぎわいらボ東千田



【地域課題・実施内容】

広島市中区千田町には広島大学があり、かつては学生の街として賑わっていましたが、キャンパスの移転や住民の高齢化により空き店舗が増え、活気の減少が地域の課題となっています。そこで、「にぎわいらボ東千田」と芸術学部の教員や学生が協力して、意見交流会やワークショップ、作品が街に出ていくような展覧会を企画・開催し、芸術を通じた地域の連携と街の活性化を目指しました。



07 コロナ禍でも健康体操で交流したい

代表者：情報科学研究科 准教授 岩根 典之
連携先：比治山学区社会福祉協議会

【地域課題・実施内容】

比治山学区社会福祉協議会から、「集会所などに集合しなくても、ゲーム感覚でICTを使って交流できる健康づくり活動がしたい。また、スマートフォンを活用できる高齢者を増やしたい」という課題の提案をいただきました。この背景には、昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、高齢者の介護予防・健康づくりや交流活動に支障が出ているという事情がありました。そこでさまざまな体操環境を設計提案し、楽しく持続可能な活動環境の整備を目指しました。

